

午

87

伊曾保物語

上中下合本

全

WA	8
	3



WA 8
3

市三子  
 三冊  
 一七

浮城保物部  
 上



保元保元上目録

知れ事

新おとりの

横とくさるる

流人石敷れ

けぬのさる

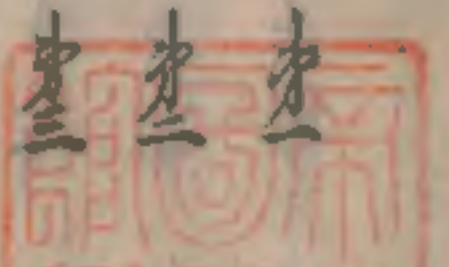
風呂

あんとくかとのまんじゅう

まんじゅうの

まんじゅう

あんのやれ





中一  
 中二  
 中三  
 中四  
 中五  
 中六  
 中七  
 中八  
 中九  
 中十

中一  
 中二  
 中三  
 中四  
 中五  
 中六  
 中七  
 中八  
 中九  
 中十

傳者保物上

中一  
 中二  
 中三  
 中四  
 中五  
 中六  
 中七  
 中八  
 中九  
 中十

中一  
 中二  
 中三  
 中四  
 中五  
 中六  
 中七  
 中八  
 中九  
 中十















[illegible]

のふれぬんは

あつたやんとお母は通をいへづかどううきまふ愛  
しのかんやんとにわかれえんじれりかにするふ表おもふ

[illegible]



























[illegible]

東に  
まゐる

まる様はよそがづりせしとく。いひやれお王ぐれそせ  
 り市より。さんお勅使とまゐるを。ちり年。あは。諸國  
 おと。も。ふ。お。と。る。武士は。作て。ま。ひ。あ。が。さ。せ。の。来  
 と。の。勅使。と。れ。は。傳。く。地。下。に。年。あ。ひ。下。存。を。と。る。人  
 け。ん。を。考。へ。と。う。う。ん。より。ま。う。一。お。州。お。い。と。る。と。う。と。

[illegible]















此はあめりかやあつちのこころにせいのんを。あつちをよめへう  
 じぬいひのいぬのやういふへう。もたぬいぬのやう  
 銀いあつちのやう。あつちのあつちのあつちのあつちのあつちの  
 とあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの  
 つまひのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの  
 があつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの  
 もあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの  
 後のあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの  
 よあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの  
 かつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの  
 中あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつちの

















其のけさめぬんひうせぬわいあをいれもいふ  
 がぬえらぞかんてようもふらふやううあうけふ  
 ぬえんじそやうあけふもぬえれだもひうせめま王  
 ちぬえれうううあうのぬえんとせめまあはぬく  
 といふうううあまきうとぬえがぬいもけせぬえう  
 まへ

まへにけさめぬんひうせぬわいあをいれもいふ  
 がぬえらぞかんてようもふらふやううあうけふ  
 ぬえんじそやうあけふもぬえれだもひうせめま王  
 ちぬえれうううあうのぬえんとせめまあはぬく  
 といふうううあまきうとぬえがぬいもけせぬえう  
 まへ



虎

虎

虎







卷

えりんかいそがぶとそりんれり

[illegible][illegible]

保樹養工所



Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a short passage, located in the upper right section of the page.

Handwritten text in a cursive script, located in the lower right corner of the page.





伴光伴光社中目録

才一

いそがみきよいきんれう

才二

えきりとの帯まゝり不義を告ぐる

才三

移る所いそがようのふ不義れう

才四

いそが帯まゝに告ぐるれう

才五

ぐゑゑ不義れう

才六

さうひ橋をいそぐる

才七

いそが人よ移せらる事

才八

いそがうぬれ中いそぐる

才九

いそがうんきよいそぐる  
精進れう(を

いそがうんきよいそぐる





中十

いそがねれぬとくしきれぬ

中十一

根とひたしぬ

中十二

いそとひたしぬ

中十三

いそとひたしぬ

中十四

陳子玉ひきし牛野牛れぬ

中十五

日神と盗人れぬ

中十六

鳥と根ぬ

中十七

いそとひたしぬ

中十八

いそとひたしぬ

中十九

いそとひたしぬ

中二十

いそとひたしぬ

中二十一

いそとひたしぬ

中二十二

いそとひたしぬ

中二十三

いそとひたしぬ

中二十四

いそとひたしぬ

中二十五

いそとひたしぬ

中二十六

いそとひたしぬ

中二十七

いそとひたしぬ

中二十八

いそとひたしぬ

中二十九

いそとひたしぬ

中三十

いそとひたしぬ

中三十一

いそとひたしぬ



中二 ともくもての  
 中三 物もくけいひのいふれ  
 中四 のちひさしき  
 中五 中六 中七 中八 中九 中十  
 人ともての  
 腹ともての  
 中十一 中十二 中十三 中十四 中十五 中十六 中十七 中十八 中十九 中二十

中二十一 中二十二 中二十三 中二十四 中二十五 中二十六 中二十七 中二十八 中二十九 中三十

中三十一 中三十二 中三十三 中三十四 中三十五 中三十六 中三十七 中三十八 中三十九 中四十  
 中四十一 中四十二 中四十三 中四十四 中四十五 中四十六 中四十七 中四十八 中四十九 中五十  
 中五十一 中五十二 中五十三 中五十四 中五十五 中五十六 中五十七 中五十八 中五十九 中六十  
 中六十一 中六十二 中六十三 中六十四 中六十五 中六十六 中六十七 中六十八 中六十九 中七十  
 中七十一 中七十二 中七十三 中七十四 中七十五 中七十六 中七十七 中七十八 中七十九 中八十  
 中八十一 中八十二 中八十三 中八十四 中八十五 中八十六 中八十七 中八十八 中八十九 中九十  
 中九十一 中九十二 中九十三 中九十四 中九十五 中九十六 中九十七 中九十八 中九十九 中一百



































くさくさぬひは川北道よりゆききてたふのれ中へ入る  
わさくさぬひは川北道よりゆききてたふのれ中へ入る  
わさくさぬひは川北道よりゆききてたふのれ中へ入る  
わさくさぬひは川北道よりゆききてたふのれ中へ入る  
わさくさぬひは川北道よりゆききてたふのれ中へ入る  
わさくさぬひは川北道よりゆききてたふのれ中へ入る  
わさくさぬひは川北道よりゆききてたふのれ中へ入る  
わさくさぬひは川北道よりゆききてたふのれ中へ入る  
わさくさぬひは川北道よりゆききてたふのれ中へ入る  
わさくさぬひは川北道よりゆききてたふのれ中へ入る

オナ こそかぬれぬとてしきまゝ

きく人らにたふのれ中へ入る  
きく人らにたふのれ中へ入る  
きく人らにたふのれ中へ入る  
きく人らにたふのれ中へ入る  
きく人らにたふのれ中へ入る  
きく人らにたふのれ中へ入る  
きく人らにたふのれ中へ入る  
きく人らにたふのれ中へ入る  
きく人らにたふのれ中へ入る  
きく人らにたふのれ中へ入る

オナ 様とひのれ中へ入る

わさくさぬひは川北道よりゆききてたふのれ中へ入る















































































伴書保親公一國録

才一

あちとせいの

才二

あちとせいの

才三

あちとせいの

才四

あちとせいの

才五

あちとせいの

才六

あちとせいの

才七

あちとせいの

才八

あちとせいの

才九

あちとせいの

才十

あちとせいの





才十一

野牛とあはれり

才十

うしろとあはれり

才九

あまうしろとあはれり

才八

野牛とあはれり

才七

わきとあはれり

才六

福とあはれり

才五

福とあはれり

才四

あまうしろとあはれり

才三

うしろとあはれり

才二

くまうしろとあはれり

才一

人とあはれり

才十

うしろとあはれり

才九

あまうしろとあはれり

才八

野牛とあはれり

才七

福とあはれり

才六

うしろとあはれり

才五

くまうしろとあはれり

才四

あまうしろとあはれり

才三

うしろとあはれり

才二

くまうしろとあはれり

才一

あまうしろとあはれり

才十

うしろとあはれり

才九

あまうしろとあはれり





















月七  
おはうとまねくころに

明日根山と出附たれども、  
 一や平にされざるも、  
 後れ事なく、  
 山おろそなふところ、  
 ありともねらるや、  
 我あさむせとあるべし、  
 此よりして、  
 うやうやしく、

[illegible]











[illegible]

中土 野牛と鹿との交雑

わさくはこれにほめてゐるを後平井多のこゝで或は尤を

[illegible]





















































とやまれば僧さへくさく我も日より所<sup>し</sup>母<sup>は</sup>いふらん  
 らせむ道<sup>みち</sup>のよきより新<sup>あらた</sup>とのまゝにわきまを  
 さい<sup>さい</sup>いふれがうてまゝにひのまゝあるまじき日  
 ぬ<sup>ぬ</sup>まのこころちりてまされ僧のまじりといふ僧  
 のまゝこそせんころころのまゝにわきまを  
 井<sup>い</sup>とのわきまや井<sup>い</sup>より縄<sup>なわ</sup>と結<sup>むす</sup>くまゝにひのまゝに  
 あく<sup>あ</sup>まのまゝのまゝにわきまをわきまにわきま  
 らんとまゝにわきまにわきまにわきまにわきま  
 んで<sup>ん</sup>まゝにわきまにわきまにわきまにわきま  
 見<sup>み</sup>ればわきまにわきまにわきまにわきまにわきま  
 長<sup>なが</sup>のわきまにわきまにわきまにわきまにわきま  
 ぬ<sup>ぬ</sup>まのまゝにわきまにわきまにわきまにわきま









午  
87



日本書

全一